

- 各高等学校は、子どもたちの視点に立ち、生徒・保護者が行きたい、行かせたい学校となるため、魅力化・特色化に取り組むべきである
- 学校の魅力化・特色化のためには、各高等学校が、市町村、小中学校、大学、企業、関係機関等とつながり、連携・協働を進めることが重要である

＜共通＞

① 高等学校の適正規模・最低規模について

- 学校の適正規模は県内一律で考えるのではなく、子どもたちの学びのニーズや地域ごとの状況に応じた規模にしていくべきである。
- 生徒の社会性を育成することや協働的な学びを実現するためには、一定の生徒数が必要である。中山間地域の学校等においても、以下のような生徒数の目安を設定し、地域と一体となって生徒数確保に取り組む必要がある。
＜小規模校（中山間地域の学校等）の生徒数の目安＞
 - ・本校：1 学年 1 学級20人以上
 - ・分校：1 学年 1 学級10人以上
 - ・定時制夜間部：学校全体の生徒数20人以上
- 目安とする生徒数が維持できない場合は、今後の高等学校の在り方について地域や市町村と協議する必要がある。
- 定時制については、ICTを活用したサテライト校化など教育機会の確保を行ったうえで、再編についても検討していくべきである。

② 学校の魅力化・特色化に向けて

- 教員が魅力ある授業を行うことが最も大切である。教員がやりがいを持ち、楽しくいきいきと教育に携わることや教員の指導力向上が必要である。
- 高等学校と市町村や小中学校、地域等との協働体制が重要であり、関係機関等とつながりをもちながら魅力化・特色化に取り組む必要がある。
- 進学後の高校生活をイメージできることが進学意欲に繋がることもあるため、高等学校は特色を明確に打ち出し、充実した広報活動を行うべきである。
- 地域外や県外生徒の受入れ体制をより充実させ、全国からの生徒募集を進める必要がある。
- 子どもたちの多様な学習ニーズに柔軟に対応した新たな学びができる学校が必要である。
- ICTを活用し、他校や大学、地域等とつながり、さまざまな学びができるネットワーク化を進めていくべきである。

③ 入試制度の見直しについて

- 生徒の強みや可能性を、これまで以上に多面的・多角的に評価する学校の特色に応じた新たな入試制度を検討すべきである。
- 不登校生徒や日本語を母語としない生徒などに対応する入試制度を検討すべきである。
- 県外からの生徒募集に対応した入試制度の拡大を検討すべきである。
- 各校の特色に応じた入試制度を導入する場合には、入試の実施時期を早期化（1月から2月）する必要がある。

＜課程・学科別＞

高等学校の配置、魅力化・特色化等について

全日制 普通科	○さらに小規模校化が進むことが想定され、将来的には県全体のバランスを考慮しつつ、地域別に普通科の学校配置の検討が必要である。 ○連携型中高一貫教育校は、現在設置されていない地域への配置を引き続き検討すべきである。 ○併設型中高一貫教育校は、現状の東部、中央部、西部の3地域での配置を引き続き維持すべきである。 ○都市部の生徒数の多い学校と小規模校は、それぞれの特色を生かした学びを進めていくべきである。 ○普通科がより魅力的になるように地域資源を生かした活動や普通科改革に取り組むべきである。 ○現計画の7校の進学拠点校は一括りにせず、各校の特色や現状を踏まえ、その位置付けを見直すべきである。
全日制 産業系 専門学科	○将来を見通したうえで、社会や時代のニーズに合う学科への改編を検討すべきである。 ○今後の生徒数の推移を踏まえ、生徒数が少ない学科の見直しや、学校・学科の再編・統合を図ることも必要である。 ○地元企業と連携して産業界の最新の状況を捉え、ICT活用やDX化などの学びの高度化に取り組むべきである。 ○小中学校との連携については、キャリア教育において強化していくことが必要である。
全日制 総合学科	○現在の配置を維持していくべきだが、生徒数の状況を見据え、将来的には配置の在り方について検討する必要がある。 ○総合学科の教育内容がわかりやすいものとなるよう、系列名の見直しを行うべきである。 ○総合学科の取組の理解促進のため、広報活動を充実させる必要がある。
定時制 ・ 通信制	○定時制の配置は、現在の配置にこだわらず、ICTを活用した通信制高校のサテライト校化など、地域ごとに学びを保障する再編を検討していくべきである。 ○生徒の多様な学びに対応するため、三部制の導入も検討すべきである。 ○再編を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、通学手段等を考慮しながら進めることが必要である。 ○定時制・通信制では、さらなるICTの活用により、多様な学びが提供できる環境づくりに努める必要がある。 ○通信制では、従来の紙媒体によるレポート提出ではなく、ICTを活用することや、スクーリングの会場を増やしていくことも必要である。 ○校名をインターネットハイスクールなど先進的でポジティブなイメージに変え、魅力化・特色化につなげていくことも必要である。
地域別 ・ 課程別	○生徒の多様な学びのニーズに対応していくためにも、学校規模は地域別・課程別に検討する必要がある。 ○生徒数の多い高知市・南国市の学校は、一定規模の維持に努め、中山間地域等の学校は、小規模校のメリットを最大限に生かした活動に取り組むとともに、そうした取組を生かして、生徒数の維持に努めるべきである。 ○高知市・南国市の高等学校は、1 学年 4 学級以上、可能であれば 6 学級の維持に努めるべきである。 ○中山間地域等の高等学校は、地元市町村等との連携・協働をさらに進めていくべきである。また、遠隔授業やICT活用を進め、体験入学等では体験の機会を設けることも必要である。 ○進学拠点校は必要であるが、現在の7校の拠点校の在り方については見直す必要がある。また、「拠点校」については、一定規模を維持していくべきである。 ○産業系専門高校は一定の学校規模をバランスよく保つことが必要であり、よりよい教育環境を保障するための再編・統合、学科改編を含めた高等学校の在り方の検討が今後必要である。 ○定時制・通信制は、ICTを活用した学びを取り入れ、積極的に在り方を見直していくべきである。